

提 言 書

東京・名古屋・大阪の三大都市圏を超高速で結ぶリニア中央新幹線は、全国新幹線鉄道整備法に基づき整備が進められる国家的プロジェクトであり、2011年に決定された整備計画では、「奈良市附近」が主要な経過地として明記されています。

事業主体であるJR東海は、東京～名古屋間の整備を着々と進め、政府においても名古屋～大阪間の開業を現行計画の2045年から最大8年間前倒しすることが決定され、早期全線開業に向けた新たなステージに入っています。

今後、リニア中間駅へのアクセスや駅周辺の整備など、具体的なまちづくりの検討を進めていくためにも、駅位置やルートの確定、早期全線開業につながる環境影響評価手続きに一日も早く着手することが必要であります。

そこで、我々は、この動きに的確に対応し、リニア中央新幹線の効果を奈良県全域の発展に生かすため、奈良県として一致結束して取り組み、ともに未来を切り拓くため、次のとおり提言するものです。

1. 中間駅の位置が早期に決定されるよう、速やかに環境影響評価手続きに着手し、県内の候補地を一本化すべきこと。中間駅は、リニア中央新幹線がもたらす効果を県南部を含む奈良県全体に、また紀伊半島地域にも広く波及させるため、鉄道網・道路網で各地と高い交通結節性を有し、県の人口重心にも近接した大和郡山市に設置すべきこと。
2. リニア中央新幹線がもたらす様々な効果を最大限に発揮するため、早期に名古屋～大阪間の事業化を図り、東京～大阪間の一日も早い全線開業を目指すこと。また、全線開業について、8年間の前倒しを確実なものとする。
3. 様々な波及効果も期待できるリニア中央新幹線の車両基地について、名古屋～大阪間の車両基地は、大阪のターミナル駅の近傍である奈良県内へ設置すること。

平成30年7月23日

「奈良県にリニアを！」の会